

令和5年9月25日 開会

令和5年度 第1回紫波町総合教育会議 議事録

紫波町教育委員会

令和5年度 第1回紫波町総合教育会議 議事録

1 日 時	令和5年9月25日 午後6時から午後7時15分まで		
1 場 所	紫波町役場 会議室 301-303		
1 出席者	町長	熊 谷	泉
	教育委員会 教育長	侘 美	淳
	教育委員会 教育長職務代理者	畠 山	秀一郎
	教育委員会 委員	森 田	英 仁
	教育委員会 委員	滝 澤	真千子
	教育委員会 委員	内 城	寛 子
1 説明員	副町長	藤 原	博 視
	企画総務部長	鎌 田	千 市
	教育部長	阿 部	薫 之
	企画総務部企画課長	鎌 田	千 市
	教育部教育総務課長	葛	博 之
	教育部学校教育課長	大 森	啓 睦
	教育部生涯学習課長	須 川	範 一
	教育部こども課長	吉 田	真 理
	企画総務部企画課副課長	森 川	高 博
	教育部教育総務課副課長	沼 田	信 一

議 題

- (1) 紫波町総合教育会議設置要綱の一部改正について
- (2) 「日本の令和型学校教育」を推進する地方教育行政について

議事の概要

(開会 午後6時)

○ 教育部長

これより会議を開きます。

それでは、ただ今から令和5年度第1回紫波町総合教育会議を開会いたします。開会に際しまして、町長よりご挨拶申し上げます。

○ 町長

総合教育会議の開催に当たり、お集まりいただきありがとうございます。

本日は、教育に関して皆様からご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

- 教育部長  
続きまして、教育長よりご挨拶申し上げます。
- 教育長  
本日は、これからの教育について皆様と共有を図り、町長と教育委員が忌憚のない意見交換ができれば良いと思っています。どうぞよろしくお願いします。
- 教育部長  
次に、議事に入りますが、紫波町総合教育会議設置要綱の規定により町長が議長となるとなっておりますので、ここからの進行につきましては町長にお願いいたします。
- 町長  
それでは、議事の（１）「紫波町総合教育会議設置要綱の一部改正について」を議題といたします。  
事務局から、説明をお願いします。
- 教育総務課副課長 説明
- 町長  
ただ今の説明がありましたが、組織改編に伴う要綱の一部改正です。よろしいでしょうか。  
（「異議なし」の声）
- 町長  
それでは議事の（１）はこのとおり決定いたします。  
次に議事の（２）『令和の日本型学校教育』を推進する地方教育行政について」を議題といたします。  
佐美教育長から、説明をお願いします。今回のテーマは、教育行政の在り方についての議題ですので、議論を円滑に進めるために、ファシリテーター役を佐美教育長をお願いします。
- 教育長  
まず、『令和の日本型学校教育』とは何なのか、文部科学省が求める教育行政の在り方とは何かを、資料に沿って、また映像を交えながら事務局より説明します。
- 学校教育課長 説明
- 教育総務課長 説明
- 教育総務課副課長 説明
- 教育長 説明
- 教育長  
今の説明を受けて、まずは委員の皆様からご感想・意見等をいただきたいと思います。
- 滝澤委員  
予測困難な時代になったと感じます。学習ツールもそうですが、子どもたちの選択肢が増えていの中で、保護者は柔軟な対応をしないと子育ても難しくな

ると思います。教育委員会の活性化には、地域住民等と意見交換をし、この中で互いに情報を得ていくことが重要だと思いました。

○ 教育長

資料を見ますと、事務局が提案するだけでなく、委員が発議・提案することも重要であるとされています。そのためにはリサーチ力が必要になってきます。

○ 内城委員

ライフスタイルが変わってくると、コミュニケーションツールが変わっていくのだと思います。それは、電話、手紙、メールを超えたものであり、思ったことが相手に伝わる、子供が自由に使える、単なる文房具としてのICT活用ではなくなっていくのだと思います。

そうした中で、教育は子供の自由度、選択を許すことを教えていかなければなりません。これまでの教育に相反するような、管理していたものを手放すことも必要になってくるのではないのでしょうか。

こういった試みは失敗がつきものではあり、失敗が許されない教育行政ではありますが、何か模索できる、チャレンジできる町であれば良いと感じます。

○ 森田委員

平成26年度の法改正以降、紫波町は組織としては順調に取り組んでいると感じています。今後も継続して進めていければ良いと思います。

ただ、教育現場もあることですから教育委員会との擦り合わせが必要と思います。いくらICT教育を推進しても、道からはずれる子供もいる。子供の「○○させられている」という受け身の姿勢から、どう自主的な姿勢に向かわせるかは、地域社会とのつながりが重要であると思っています。

○ 畠山教育長職務代理者

幼児教育に携わっている側としては、ファーストステージにおいても教育は重要と思っており、円滑に小学校に繋げていきたいと考えています。

教育にはICT活用などの流行の側面と、人間としての基礎基本を学ぶ普遍的な側面があります。特に後者は、幼児教育でも取り入れてきております非認知能力を高めていくことが必要と思います。

また、埼玉県戸田市の事例がありましたが、そういった先進地を視察する、教育委員と校長との会議、教育委員が学校現場を見るという取組みが紫波町でもあれば良いと思います。

○ 教育長

学校教育を考えると、当然ながら0歳から5歳のことも考えなければなりません。また、学校教育後も社会教育、生涯学習へ波及します。教育は生涯にわたり関わる事項です。

先ほど、子供の選択肢、失敗の話題がありましたが、このことについて、コメントがありましたらお願いします。

○ 滝澤委員

親としては、固定観念があることは否めません。「個別最適な学び」と言いますが、子供に選択を与えた後、たとえば間違えたとしても、「間違えてしまった」ではなくどのように成功に導き、子どもが消化できるようにするかを考えていかなければならないと思います。

○ 内城委員

学生を見ていると、失敗が少ないために学習しないまま成長してきたのではと思うことがあります。子供の頃に、たくさん失敗をした方が大人になったときうまくいくのだと思います。メールやSNSなどの主体的なコミュニケーションの場をある程度を許してやることも必要なのではないのでしょうか。

○ 森田委員

小さいうちは親の言うことを素直に聞くのですが、成長とともに親と自分の違いを認識し、主体的に動いて失敗を繰り返すことで、どうやって社会で生きていくかを考えていくのだと思います。

○ 畠山教育長職務代理者

人間失敗はつきものです。失敗してもダメだと思わず、大人がアドバイスしていき、失敗を乗り越える経験を積み重ねることが大事だと考えます。

○ 教育長

いろんな意見をいただきました。ありがとうございます。

まとめに入りますが、畠山教育長職務代理者のご発言にもありましたが、教育委員会の活性化の一つに、研修会やフォーラムなどを開催することも考えてまいりたいと思います。最後に町長にコメントをいただきたいと思います。

○ 町長

我々がやらなければならないことは、人間の「心の軸」をどこにするか、心の軸を教えていくことだと思います。人間の基本的なこと、人間性、生き方を教えていくことだと思っております。そのために、教育委員会とともに取り組んでまいります。

○ 町長

それでは、本日の議事については、終了としてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり。)

○ 町長

ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

○ 教育部長

続きまして、5 その他に入ります。事務局では特にございませんが、皆様から何かございますでしょうか。

なければ、以上をもちまして、令和5年度第1回紫波町総合教育会議を閉会いたします。

お疲れ様でした。

(閉 会)